

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	虹の家の理念として、一人ひとりの利用者様を支えていくことを掲げて取り組んでいる。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を理解し、意図する事によって実践をしている。		理念は廊下やホールなどいつも目に付く場所に提示し、意識をして働いている。毎朝申し送り時に職員全員で唱和している。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念は居間や玄関の見やすい所に掲示している。町内会の活動に参加をしたり、運営推進会議により地域の方々に日々の活動の説明をしたりと多くの人々に理解をして頂けるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内の方が雪かきを手伝って下さったり、朝のゴミ捨てや散歩の場面で会話をしたりしている。		散歩の時など「がんばってね」と声をかけて頂いた。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の運動会・納涼祭・収穫祭などの催しがある時はお誘いをして頂き参加をしている。		12月のクリスマス会に町内会の有志の方々がボランティアで歌や踊りなどを披露して下さいました。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域高齢者集会所をホームに設置している。		札幌市の出前講座などで地域の方々に利用して頂きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>職員全員で自己評価を取り組み、外部評価の結果をカンファレンスの時に話し合っている。</p> <p>前回指導を受けた点については改善するよう努力をしている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>運営推進会議では今まで行ってきたことの報告をするだけでなく、今後実施をしていきたいことに対し意見を頂いてサービス向上に活かしている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>市の窓口で職員が出向くことが多いが、行き来するには至っていない。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>権利擁護に関する研修には毎年参加するように努力している。また、参加した職員より研修報告を他職員に行っている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>当グループホームでは皆無であるが、外部の研修に参加し防止に努めている。介護者一人ひとりが言葉かけや介護動作に配慮をしている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居時に不安を軽減して頂けるように説明を十分行っている。入居後もその都度説明を行っているので理解して頂いていると思う。</p> <p>保証人の方も高齢の場合など、その時納得なさっても後で判らない事もあるのでその都度説明させて頂いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	職員が苦情や意見を受けた場合、利用者様やご家族、管理者・経営者も交えて話し合う場を作り、改善策を検討しご理解を頂いている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会にご家族がいらした時はその都度近況報告をしている。また、体調などに変化があった時はご家族様宅へ電話またはファックスにて報告をさせて頂いている。		毎月、虹の家便りを発行し行事参加や日常の生活の報告を行っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	苦情・意見箱を設置しご家族にお声はかけているが、今の所ご家族からの不満や苦情は聴かれていない。		不満や苦情が出しやすいよう、ホームに意見箱を設置している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年1回程度、運営者と職員の全体会議の場を設けている。管理者は、申し送りやカンファレンスの時などで話し合いを行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	限られた職員数の中で柔軟な対応をしていくのは難しいが、職員が協力し合って要望に対応する努力をしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	昨年の評価時期からは職員は定年、退職、異動と4人変わっているが、利用者様にとってなじみの職員が去ることは大変なダメージであるので、最善の配慮をしていきたい。また、利用者様が新しい職員に心が開けるまではフォローをしていきたいと思う。		職員の定年は仕方がないが、異動は利用者様にとって良いことではないと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者から研修に出るように要請があった場合は、シフトの変更などをして出席しやすいようにしている。研修には出来るだけ職員全員が出られるようにしている。</p>	<p>社内でもカンファレンスの後や少しの時間を使い、介護の方法や言葉のかけ方等話し合っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修などで他施設の見学をしたり、意見交換をしている。管理者も管理者会議に出席をして情報交換をしている。</p>	<p>白石区内のグループホームのネットワークを活用し、空き室状況などを共有していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者は話し合いの場を作り、各個人のストレスの軽減に努めている。</p>	<p>有休を取りやすいように努力をしている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は個人の努力を認めていると思うが、形として現れてはいない。職員は向上心を持って実行していけるよう努力をしている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>困っていることや不安なことを表現して頂けるよう関わっているが、個人差がある。すぐに馴染んで頂ける場合と、数か月の時間を経て信頼関係が出来る場合がある。焦らず、気長に信頼関係を築いていけるよう努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時に家族からよくお話を伺い、家族は何を願っているのか、利用者様にとって何が望ましいかを受け止め、対応している。初期だけではなく、入居後も引き続き話を伺っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	電話による相談や申し込み、見学にいらした時には話をよく聞き当グループホームで対応できる内容についてご説明をしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様のペースに合わせて声掛けや見守りを行い、焦らずにゆっくりと馴染みの関係を作ってゆけるよういける努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様は人生の先輩であり、長い歴史を作った方々なので色々と学ばせて頂くこともある。良くお話を聞かせて頂いたり、利用者様が出来ることを見つけて頂き自信を持って過ごして頂いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に日々の暮らしぶりを報告すると、「そんな事も出来るんですか」と喜んで頂いたり、「若い時からそうだったんです」と変わらない所があって安心したりされている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	認知症のため、在宅でいらした時に関係が悪化してしまったご家族様には、時間をかけ認知症の事やご本人の事で理解をして頂けるよう、お話をさせて頂きより良い関係になるよう支援している。		行事にはご家族を誘って、参加をして利用者様と一緒に過ごして頂けるようにしている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みである友人、家族、職員の関係が途切れないように働きかけている。 (例: 電話連絡や宅配便を望む利用者様への支援など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	行事やレクに参加をして頂き、楽しみを共有して頂いたり、助け合う機会を作るようにしている。利用者様が他の利用者様の悪口や批判を言う場面が見られたら、職員が間に入って話題を変えている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院をされた方へお見舞いに行き様子を伺ったり、亡くなった利用者様の家族を訪問し仏前にお参りをさせて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話だけではなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察して、本人本位の生活とは何かを検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員は生活歴などの話を聞いた際は記録に残して情報を共有するように努めている。また、センター方式の書式に沿って情報を処理して把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員が得た情報は24時間チェックシートと個人記録用紙に記録し、職員全員が利用者様一人ひとりどう過ごされているか把握できるように努めている。		個人記録には利用者様の心身状態についてその都度記録に残すよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の申し送りの時や、ケアカンファレンス等で意見交換を行い、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直ししている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	当グループホームではデイサービスやショートステイは行っていない。	病院受診の送迎など、必要な時には対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の訪問診療、毎週1回の訪問看護によって健康管理がされているほか、体調に変化があった時にはその都度主治医に報告をして指示を頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医は認知症の専門医ではないが、症状を報告・相談をしてその都度対応をして頂いている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回の訪問看護により相談などを行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合は管理者が入退院の相談窓口となり、利用者様やご家族の対応を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のケアは今のところ経験はない。今後、高齢化や重度化していった場合を予測して利用者様やご家族、主治医と話し合いを持って当グループホームとしての方針を検討していかなければならないと思う。		ご家族や主治医と話し合い、文書化していく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同上		急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えされる方がいた場合は、十分に話し合い情報交換を行うよう努めていく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけには職員全員が意識をしながら行っている(一部ケアプランにも具体例を載せている)。また、利用者様の前で職員同士が他の職員の話をしていないよう心がけている。個人記録も頭文字で対応している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自分でなかなか判断できない場合は、2つのうち1つを選択して頂くなどの工夫をして、出来るだけ個人の好みに添える働きかけをしている。ご本人のペースに合わせて、無理に勧めるようなことはしないよう心がけている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペース配分を考え、柔軟な対応が出来るように心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝、自分で着る服が選べない方には「どちらがいいですか?」と職員も手助けをしながら本人を選んで頂いている。訪問理美容を利用しているが、希望者には外出をして散髪をして頂いている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の好き嫌いを考慮してメニューを考えたり、料理の下ごしらえや茶碗洗いなどで利用者様が一緒に活動できるように、一人ひとりに合わせた働きかけをしている。		職員が利用者様に作り方を教えて頂いたり、味見をして頂いているものもある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは糖尿病や肥満の方を考慮しながら日常的に提供している。タバコやお酒は家族の希望や服薬の関係もあり、ホーム内では認めていない。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	尿意や便意のない方もリハビリパンツ、尿パットにてトイレ誘導により排泄されている。夜間もポータブルトイレを設置して、排尿が間に合うように心がけている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望された日に入ってもらっているが、希望がない場合でも少なくとも週に2回はお誘いをして入ってもらっている。体調に合わせてシャワー浴や清拭、ドライシャンプーなど利用者様に負担のかからない方法を考慮している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中のレクに参加して頂いても、利用者様の表情などを見て休息を促している。一人ひとりのペースに合わせて見守りを行っているが、良眠されているように見受けられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理手伝い・食器片付け・自室の掃除・洗濯物たたみなど、出来ることを見つけ出して役割を持って頂くよう支援をしている。毎日のレクの他にも誕生会やクリスマス会、敬老会など年中行事を企画して楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出や散歩の時には小銭を持って頂き、好きな物を購入する楽しみを感じて頂けるようにしている。ただ、物忘れや物取られ妄想がある方もいるので基本的にはスタッフが見守り、管理をしている。		一人ひとりのお小遣い帳を付け、家族にも確認をして頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員と一緒に近くの公園まで散歩をしたり、近所のスーパーまで利用者様の買い物に付き添っている。行事として出かけて外食を楽しんだり、家族との外出を楽しんでも頂いている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お花見やゆきまつり、デパート見学などを企画して、車椅子を使用されている方にも気軽に参加をして頂いている。家族と出かける喜びや、好きな物を食べられる楽しみを感じて頂けるよう支援をしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の事情を考慮した上で、本人が電話をかけたいと希望があればいつでも対応している。手紙も書くことが出来る方にはお手伝いをして、家族からの手紙もお渡しして行き来を楽しんで頂いている。		電話はワイヤレスの子機を使用して頂き、必要時には自室からでもお話が出来るようにしている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも自由に訪問に来て頂いている。ご家族が宿泊される時は、利用者様と一緒に食事も食べて頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はあってはいけない行為であると、職員全員が認識を持って働いている。		拘束をしないで安全かつ健やかに過ごして頂けるよう、困難な事例が出てきても職員全員で考え解決策を考えていきたいと思う。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関を開放して外気浴などが出来るようにベンチを設置している。玄関のセンサーが反応すると職員は利用者様にお声をかけ、外出を希望された場合は行き先や理由を確認して対応をしている。尚、夜間は施錠をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	台所は視覚的にも聴覚的にも死角になるため、職員が台所に入る時には注意をしている。ホールでお話をしながら様子を伺ったり、居室から出てこられない利用者様へお声をかけたりするほか、物音にも注意を払っている。		職員は24時間チェック表や個人記録、申し送りを通して全員の状況を把握して安全に配慮をしている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬品や洗剤などは鍵の付いている物品庫に保管をし、使用する時に取り出すようにしている。包丁などは見守りながら利用者様にも使って頂き、夜間は布に包んで戸棚に保管をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの起こりうる危険因子に対してケアプランを立てて、職員全員で取り組んでいる。転倒などが起こった場合はヒヤリ・ハットの書式に沿って原因を追究し改善策を立て、家族への説明内容や反応について記録に残している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成し、それぞれのケースに合わせた対応方法を載せている。緊急時の連絡網や報告をする内容についても明記している。救命救急の講習を受講している職員もいる。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害発生時の役割分担・連絡先を明記して提示している。避難場所として近くの公園だけではなく、町内会の会館を利用させて頂けるようにしている。定期的に避難訓練・消防訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクに対するケアプランを立案し、ご家族にも説明をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		<p>個人記録用紙と一緒に利用者様の既往歴や内服薬の内容を記載したものが挟んである。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>24時間チェック表で食事や飲水量、排泄の有無が一人ひとり把握できるようにしている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>インフルエンザの予防接種は毎年受けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具などはハイターや食器乾燥機を使って毎日消毒を行っている。食材は業者から毎日新鮮な物を納入されてほぼ使い切っている。熱を通す調理を主に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に色とりどりの花を飾って暖かい雰囲気作りをしている。外にはベンチを2か所設置し、利用者様が外気浴をして、近所の方々が声をかけやすい環境づくりをしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関にはスロープがあり、室内もバリアフリーで車椅子の方でも安心して過ごして頂けるようになってきている。日当たりの良い居間にはソファや畳・オルガンがあり、くつろげる空間を作っている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や居間にソファを設置して、利用者様の好きな空間で過ごして頂いている。居間のソファに座って数人でテレビを見たり、洗濯物を片付けたり自由に過ごして頂いている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される時には、以前から使用されていたものや愛着のあるものを持参して頂いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天候に合わせて窓を開けて空気の入替え・室温調節を行っている。冬場は加湿器を使用したり、保湿用タオルをかけて温度調節を行っている。換気扇や消臭剤も活用して悪臭がこもらないように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各居室からトイレが近くに配置されているので、トイレの自立に なげている。壁には手すりが設置され、室内バリアフリーの設計と なっており、利用者様が安心して移動できるようになっている。階 段を利用しない利用者様にはエレベーターを使用して頂いてい る。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>「出来ること」「出来ないこと」を観察・評価して、何を手助けすれば 自立できるのかを検討しケアプランを立てて取り組んでいる。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関先に色とりどりの花を飾ったり、建物のそばに花畑を作り、観 賞や水やりを楽しめるようにしている。</p>	<p>ベンチを設置して、ゆっくりと鑑賞が出来るようにしてい る。</p>

サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない	個々の個性や生きてきた過程によって考え方も違ってくるので、100%理解するのは難しいが一人ひとりの思いや願いに添えるように心がけている。認知症が進みせん妄状態となっている方の思いの汲み取りに苦慮している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	一緒にテレビを見たり、お話をしたり散歩をするなどの時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	好きな時に居間でテレビを見たり、CDを聞いたり、自室で過ごしたりと、自分のペースで過ごして頂いている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	レクは強制ではないがほぼ全員の参加が見られ、楽しんで参加をして頂いている。散歩などの外出や季節ごとの行事に参加をしている姿は、生き生きとした良い表情が見られた。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	希望を言われる方は1~2名程度だが、自らの希望がない利用者様にも職員が利用者様の立場に立って、公園でのピクニックを考え散歩や買い物を楽しんで頂けるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	琴似ファミリークリニックとの医療連携をして、主治医からの具体的な指示を頂いている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	要望に添えるよう柔軟な対応に心がけているが、人員の都合でどうしても添えない場合がある。その時には理由を説明して利用者様にご理解を得ている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない	家族の方の面会時や電話での対応時には、気軽にお電話・相談が出来るような態度で接している。ケアプランに家族の意向を取り入れるようにしている。

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	<p>月1回のボランティアによるギター演奏のほか、訪問診療・訪問看護・訪問理美容のスタッフが定期的に訪れている。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>	<p>会議に参加して頂いた方々にはグループホームについて理解を深めて頂くことが出来たと思う。参加が出来なかった地域の方々にも理解を深めていくためにも、近隣の理容室やスーパーへ利用者様と出かける機会を作っている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>	<p>職員全員が利用者様に明るく・優しく声をかけ、思いやりを持ちながら働いている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>	<p>共同生活によって自由にならない事や、他利用者に対する考えなど一人ひとり不満はあると思われるが、おおむね満足されている様子。「やっぱり、此処が一番良い」という言葉も聞かれている。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>	<p>家族との会話や表情から判断しても、おおむね満足して頂いていると思う。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者様の年齢が70代前半から90代前半と非常に幅広いため、画一的なケアだけではなく個々人のペースに合わせ、ゆったりとした日常生活を送ることが出来るよう支援をさせて頂いている。